

# 農林水産商工常任委員会提出資料

(平成24年4月20日)

項目	ページ
1 暴風による農林水産被害状況及び被害への対応について 【農政課・生産振興課・水産課】 .....	1
2 平成23年度食のみやこ・やらいや農林水産業プロジェクト 会議の実施状況について 【農政課】 .....	3
3 農業大学校の学生及び研修生の動向 【農業大学校】 .....	4
4 神戸市中央卸売市場での「鳥取和牛オレイン55」の 認定開始について 【畜産課】 .....	5
5 第58回鳥取県植樹祭（第64回全国植樹祭プレ植樹 祭）の開催について 【森林・林業総室】 .....	6
6 美保湾でのギンザケ海面養殖試験の実施状況について 【水産課】 .....	7

農 林 水 産 部

# 暴風による農林水産被害状況及び被害への対応について

平成24年4月20日  
農 政 課  
生 産 振 興 課  
水 産 課

## I 被害状況について

4月3日(火)から4日(水)にかけて日本海で急速に発達した低気圧に伴う暴風により、県内で農林水産業施設等に被害が発生し、被害状況および被害への対応状況について以下のとおり取りまとめました。

○合計被害金額： 64,538千円

(内訳)：農作物 7,060千円、 農業施設 42,728千円、水産業 14,750千円

### 1 農業関係被害

#### (1) 農作物被害

品目名	被害規模	被害額	市町村	被害状況
メロン	0.27ha	195千円	大山町 他1市3町	・苗の死滅
すいか	0.75ha	422千円	北栄町 他1市1町	・苗の死滅
ブロッコリー	7.01ha	5,328千円	大山町 他1市1村	・苗のしおれ、葉の枯れ
白ネギ、いちご、 ぶどう樹体他	0.34ha	1,115千円	北栄町、 他1市2町	・葉の折れ、曲がり、花芽の痛み ・枝倒れ等の樹体被害など
合計	8.37ha	7,060千円		

#### (2) 農業用施設被害

施設等	棟数等	面積	被害額	市町村	主な被害状況
ビニールハウス	657棟	108,923 m <sup>2</sup>	37,309千円	大山町、 他4市9町	・ビニールの破損 ・ハウス骨材の破損
畜舎・堆肥舎	8棟	—	4,520千円	大山町、 他2市2町	・畜舎、堆肥舎屋根の破損 ・ビニールの破損
その他 (資材庫、農具庫)	8棟	—	899千円	大山町、 他1市1町	・屋根、シャッターの破損
合計	673棟	—	42,728千円		

### 2 水産関係被害

○山陰旋網漁協組合の水産物倉庫換気扇フードの破損2カ所、屋根落下破損(被害金額；1,500千円)

○米子市漁協で3隻(1.35ト、1隻、0.4ト、2隻)が浸水(被害金額；2,200千円)

○東郷湖漁協で保管用テントの破損(被害金額；20千円)

○鳥取県漁協

・網代港支所：漁船2隻の損傷、事務所屋根の破損(被害金額；500千円)

・酒津支所：漁船1隻(0.3ト)水没(被害金額；500千円)

・浜村支所：イワガキ養殖用イカダの破損(被害金額；1,590千円)

・東支所：小型船1隻の横転(被害金額；300千円)

・中山支所：御崎港岸壁に保管していた網等が波で流出(被害金額；7,940千円)

○赤碕漁協で漁船2隻(0.5ト)水没(被害金額；200千円)

## II 被害への対応について

### 1 被害拡大を防止するための現地対応

農林総合研究所から技術情報を関係機関に提供するとともに、JAや普及所が連携してらっきょう等の緊急防除などを農家に呼びかけた。

### 2 復旧支援

主要農産物等の再生産や緊急防除、施設復旧に要する経費に対する補助を予備費で充当。

#### 【補助事業の概要】

- (1) 事業主体 農協、漁協、農業者、漁業者等
- (2) 補助率 県1/3以内（市町村は任意）
- (3) 補助の形態 市町村を通じた間接補助
- (4) 事業内容 4月3日（火）からの暴風により被害を受けた農林漁業者等に対して、農業用施設の復旧、野菜苗の植替え、緊急防除に要する経費及び漁具等の復旧に要する経費の一部を補助する。

3 総事業費 30,000千円（県予算所要額10,000千円）

### 4 対策の主な内容

#### (1) 農業者・畜産業者向け支援（県予算所要額：7,000千円）

区分	事業内容	事業主体	補助率	事業費	県費
① 再生産	・野菜苗の植替えに要する経費に対する補助 【例】 すいかの種苗費 ブロッコリー苗の再生産に要する経費	農業者 生産組織 農業協同 組合 等	1/3	千円	千円
② 緊急防除	・野菜等の緊急防除に要する経費に対する補助 【例】 すいか、ブロッコリー、白ねぎ、らっきょう、ミニトマト等の追加防除に要する経費			21,000	7,000
③ 施設復旧	・野菜・花き等施設園芸ハウスの復旧経費に対する補助 1 ハウスの撤去費 2 ハウスの復旧費 （フィルム単独の支援は無し） ・牛舎・堆肥舎等の復旧経費に対する補助				

※ 農業共済制度がある施設は共済金受領額（未加入の場合は復旧費の30%）を差し引いた額を補助対象経費とする。

#### (2) 漁業者向け支援（県予算所要額：3,000千円）

区分	事業内容	事業主体	補助率	事業費	県費
漁具等復旧	養殖用カキ筏の修繕等に要する経費に対する補助	漁業協同組合	1/3	千円	千円
	ハマチ刺網等の修繕等に要する経費に対する補助	漁業者		9,000	3,000

※ 補助対象経費上限額は、3,000千円。刺網漁業従事者の平均的な漁具購入費から算定。

# 平成23年度食のみやこ・やらいや農林水産業プロジェクト会議 の実施状況について

平成24年4月20日  
農 政 課

「食のみやこ鳥取県」の確立を図り魅力ある農林水産業の発展を促進するため、ブランド化及び梨、米、和牛、林業、水産業など12の分野別プロジェクトチーム（以下「PT」という。）を総括する「食のみやこ・やらいや農林水産業プロジェクト会議」を昨年8月に設置し、各分野別PTの連携を強化するとともに、それぞれの事業計画等に対して農商工の幅広い立場から意見や助言を行い、その意見等を各種施策へ反映しました。

## 記

### 1 構成メンバー

農林水産関係団体、経済団体、大学、行政機関等 計18名  
※事務局は農政課  
※会議の会長は農協中央会長

### 2 平成23年度の開催状況及び主な意見

開催時期	主な検討内容	主な意見
H23年8月17日	各分野別PTの実施計画等に対する意見、アドバイス	○分野別PTに野菜を追加するよう検討されたい。 ○ブランド化については、首都圏もいいが、県内での認知度向上も同時に実施すべき。
H23年12月1日	分野別PTの進捗状況と中間整理	○梨については、毎年廃園が多いので、どこの産地で誰がつくるのかをきちんと詰めることが必要。 ○しいたけの原木を県内で確保することが重要。 ○水産業活性化は、魚価対策が1番メインの課題であり、これが前向きになれば新規就業者やブランド化にもつながる。
H24年3月12日	分野別PTの今年度実績と次年度計画	○酪農では、新規事業を進めながら目標に向かって取り組んでいただきたい。 ○新規就業者に対しては、集まって情報交換する場を設けるなど、メンタル面でのサポートも必要。

### 3 プロジェクト会議の成果

各委員からの意見や助言を受けて、各分野別PTにおいて検討し、新たなPTを立ち上げたり、各種施策等へ反映しました。

- 3つの新たなPTを立ち上げ
  - ・野菜（H23年11月設置）、酪農（H23年12月設置）、鳥取地どり（H23年9月設置）
- 新規施策（H24年度当初予算）への反映

PT名	主な新規施策
梨	やらいや果樹王国復権事業
和牛	「鳥取和牛オレイン55」ブランド向上推進事業
酪農	がんばる酪農支援事業
鳥取地どり	鳥取地どり増産対策推進事業
新規就農	農林水産コラボ研修支援事業
緑の産業再生	原木しいたけ日本一産地づくり支援事業
水産業活性化	豊かな海づくり事業（養殖調査、井戸海水調査、ハタハタ増殖国際共同事業）

### 4 平成24年度の実行予定

- 分野別PTの検討に併せて、8月、11月、3月に開催予定。

## 農業大学校の学生及び研修生の動向

平成24年4月20日  
農業大学校

### 1 最近5カ年の入学者（養成課程）の動向

- (1) 入学者数は、定員30名に対し平成20、21年度は21名と少なかったが、22年度以降は応募者数が増加し入学者数も増加した。
- (2) 専攻別では野菜コースの学生が多い。また社会人入学生は制度を設けた平成20年度以降6名が入学している。

単位：人

入学年度	20	21	22	23	24	
応募者数	26	32	38	48	32	
入学者数	果樹	3(1)	4	7	2	5
	野菜	9(1)	8	10(1)	10	9(1)
	花き	3	3	6	3	6
	作物	2(1)	4	5	5	3
	畜産	4	2	5	6(1)	3
	合計	21(3)	21	33(1)	26(1)	26(1)

注：（ ）は、社会人入学生数（但し内数）

### 2 最近5カ年の卒業生の進路

最近5カ年の就農率は、38～59%で推移している。農業後継者の確保は県政の重要な課題であり、生産・加工・流通・販売等の実践教育を更に充実させることで新規就農の促進を図っている。

単位：人

卒業年度	19	20	21	22	23
就農 (a)	3	5	4	0	0
農業法人等 (b)	6	7	3	5	10
研修等の後就農 (c)	1	5	3	3	3
就職	10	4	8	10	12
進学	2	5	0	1	1
未定	1	3	3	2	1
合計 (d)	23	29	21	21	27
就農率 (a+b+c)/d	43%	59%	48%	38%	48%

(平成20年度まで研究課程含む)

### 3 短期研修科研修生の動向

- (1) 平成20年度に短期研修科の制度を設けた。
- (2) 近年の農業への関心の高まりを反映して退職帰農、IJUターン就農希望者等の応募が多く、毎年30名前後の受講者がある。(定員30名)
- (3) 専攻別では、野菜の希望者が多い。修了者の大半が就農している。

単位：人

年度	応募者数	受講者(延べ)						修了者(実数)	就農者(実数)	就農率(%)
		果樹	野菜	花き	作物	畜産	合計			
20	32	4	16	2	1	1	24	24	22	92%
21	40	1	29	1	0	0	31	31	30	97%
22	33	2	21	3	0	0	26	22	21	95%
23	34	2	27	0	0	0	29	24	22	92%
24※	11	3	5	1	1	0	10	—	—	—

注：平成24年度は4月開講実績。今後7、10、1月開講の研修生を募集する。

# 神戸市中央卸売市場での「鳥取和牛オレイン55」の認定開始について

平成24年4月20日

畜産課

平成24年4月6日(金)から神戸市中央卸売市場西部市場で、鳥取県牛肉販売協議会による「鳥取和牛オレイン55」の認定作業が開始されました。

## 1 経緯

平成23年1月～：「鳥取和牛オレイン55」は鳥取県食肉センター(西伯郡大山町)に出荷されたもののみを認定(平成23年の認定頭数359頭(認定割合23.3%))

平成23年11月：「料理通信」及び「あまから手帳」に「鳥取和牛オレイン55」の記事が掲載されたことで神戸市内の複数の食肉バイヤーから神戸市中央卸売市場での取扱いについて問い合わせ

平成23年12月：神戸市中央卸売市場から鳥取県牛肉販売協議会に認定の依頼

平成24年1月：鳥取県牛肉販売協議会幹事会で神戸市中央卸売市場での平成24年4月からの認定開始を承認

## 2 神戸市中央卸売市場での成績

出荷した黒毛和牛13頭中4頭(30.8%)が「鳥取和牛オレイン55」と認定され、当日セリ平均単価より約300円/kg高く取引され、4頭中3頭は県外の業者が購買するなど神戸市場他関西圏での活発な購買のきっかけとなることが予感された。

## 3 「鳥取和牛オレイン55」詳細成績について

生産者	等級	単価	枝肉金額	オレイン酸	購買者
岸本真広(智頭町)	4等級	1,805円/kg	943,076円	56.8%	はなふさ(鳥取市)
川北誠一郎(鳥取市)	4等級	1,860円/kg	717,142円	56.1%	ビージョイ(神戸市)
原田健次(鳥取市)	4等級	1,930円/kg	830,865円	58.2%	山垣畜産(神戸市)
伊藤夏日(鳥取市)	5等級	2,050円/kg	1,002,204円	58.0%	森谷商店(神戸市)

## 4 今後の見込み

神戸市中央卸売市場に月に2回(年間約300頭)出荷されるため、「鳥取和牛オレイン55」頭数の増加と認知度向上が期待される。

## 第58回鳥取県植樹祭（第64回全国植樹祭プレ植樹祭）の開催について

平成24年4月20日  
森林・林業総室

- 1 開催趣旨 森林の役割や大切さ、健全な森林育成のための木材利用の重要性等について情報発信し、植樹活動等を通じて、広く森林づくり活動に県民参加を呼びかけるとともに、第64回全国植樹祭の盛大な開催に向けて、開催PRと開催気運を高めるため第58回鳥取県植樹祭を開催する。
- 2 テーマ 「育てよう 緑が奏でる 豊かな未来」
- 3 日時 平成24年5月20日(日)10時～15時
- 4 場所 西伯郡南部町鶴田「とっとり花回廊」  
(※荒天会場 伯耆町長山 「町民溝口体育館」)
- 5 主催 鳥取県、南部町、伯耆町、社団法人鳥取県緑化推進委員会
- 6 共催 第64回全国植樹祭鳥取県実行委員会、とっとり花回廊
- 7 協力 鳥取県西部森林組合
- 8 内容等(予定)

### ◇記念式典

- ・オープニング みどりの少年団 団旗行進
- ・表彰

#### ○県植樹祭テーマ

最優秀賞：服部 <sup>はつとり</sup> 直記さん（米子市在住）

優秀賞：稲村 <sup>いなむら</sup> 雅彦さん（鳥取市在住）

優秀賞：宇田川 <sup>うだがわ</sup> 智広さん（江府町立江府中学校1年）

#### ○第42回全国林業後継者大会テーマ

最優秀賞：梶間 <sup>かじま</sup> 泰樹さん（伯耆町立二部小学校6年）

- ・第64回全国植樹祭苗木の贈呈  
第22回森と花の祭典「みどりの感謝祭」において、みどりの少年団が衆議院議長から受領した苗木を知事へ引渡
- ・森林・みどりへの思い発表  
伯耆町立八郷小学校ほか
- ・第64回全国植樹祭開催PR
- ・代表記念植樹、参加者植樹

### ◇森林・木にふれる催しなど

- ・花回廊ウォーキング等
- ・間伐・枝打ち体験
- ・ツリーイング体験
- ・木工教室

### ◇その他

- ・西部地区特産物等の販売
- ・緑化苗木無料配布
- ・2012国際マンガサミット、第30回全国都市緑化とっとりフェア、エコツーリズム国際大会2013in鳥取の開催PR

# 美保湾でのギンザケ海面養殖試験の実施状況について

平成24年4月20日  
水産課

平成23年12月5日～11日に7万尾のギンザケ種苗を、美保湾内（境港市沖合約3.5km）の生簀に收容して実施中のギンザケ養殖試験（フィージビリティスタディー）は、概ね良好に推移しており、4月25日頃からの出荷・販売を予定しています。

## 1 事業主体

臨海研究株式会社 境港事業所（所長 鶴岡比呂志）  
日本水産株式会社（代表取締役執行役員 垣添直也）

## 2 実施概要

### (1) 養殖の状況

生産	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月末には平均2kg、尾叉長50cmに成長する見込み。</li> <li>・魚病の発生も見られなかった。</li> <li>・約6万尾の生産尾数、120tの生産量を見込む。</li> <li>・筋肉の締まりが強く、良好な身質。</li> </ul>
施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冬場の時化による給餌機や網生簀の大きな破損もなく、設備の耐久性を確認。</li> <li>・4月3日の暴風においても設備の被害も最小限であった。 （給餌機の固定ロープが若干切れた程度）</li> </ul>
漁場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冬場の水温がギンザケ養殖に適した11-12℃で安定。</li> <li>・溶存酸素量が高く推移した。</li> </ul>

※養殖試験の状況から、臨海研究株式会社では、日本海漁場の生産可能性を高く評価している。冬場の時化による給餌機や網生簀の大きな破損もなく、現設備の耐久性も確認できた。



### (2) 出荷予定

出荷時期	出荷先	出荷形態
4月25日 ～	首都圏量販店（大部分）	生鮮ラウンド、冷凍定塩フィーレ加工等
5月30日 （予定）	県内量販店（一部）	生鮮ラウンド
	県営境港水産物卸売市場（一部）	生鮮ラウンド

## 3 今後の取組み

フィージビリティスタディーの結果を踏まえ、増産に向けた生産体制構築を推進する予定。